3Dプリンティング

江 澤 洋*

第25回プラスチック成形加工学会で3Dプリンティングの展示会場を見て、年々進歩する機器や拡大する応用例に驚かされた。

3Dプリンティングが注目される点は、よく言われることだが、従来のものの作りの発想を超えること例えば、閉じられた空間の中に自在な形状をもつ成形品をいれることが可能になることや現在のプラスチック成形に必要な金型がいらない等がある。

今回の展示をみて、コンシューマー用の3Dプリンターがより商品として作り上げられてきたと感じた。

一方、3Dプリンティングを産業用に展開する場合、現在のプラスチック加工品（産業）がたどってきた道のりを検証することであろう。つまりCAD（当然必要）、3Dプリンターそのもの（機器）開発、特に適応材料の開発また成形品の耐久性・強度などの評価に関する規準整備が不可欠である。

またこれら3Dプリンティングの技術要素を体系的に学べる場を作り、人材育成することでさらにこの分野が発展するであろう。

* Okamura, Isao
元モールドマスターズ(株) 代表取締役
相模原市中央区清新 1-6-10 (〒252-0216)

プラスチック成形加工学会に参加して

岡 村 功*

久しぶりに加工学会に参加の機会を得た。近年、当該産業分野の進展に従い、要請される性能、技術には大きな変化が進行し、その速度は速い。要求に応じた加工技術も、レベルも内容も高度化してきたのを見るのは驚きでもあった。ところで、総会には関連分野の多くの人々が集まる機会でもある。懇親会、技術賞発表などは同分野の人たちが集い、クラス会か同窓会的交流の場であった。

海外、例えばSPIやSPEでも同様で、更に顕著に人的交流の場を提供している。私の経験した例では、発表者は分野別にコーディネーター中心の朝食会に集まる。講演順番の確認やルールが話され、各自の自己紹介の後は出席者同志の交流の場となる。専門分野に働く者同志で会話も弾み所謂“知り合い”になる。時にはリクルートの如き人的交流の機会でもある。自個の専門技術分野を最も効果的に発揮出来る分野を、企業を超え、研究の場をも超えて挑戦する機会を与えていた。私事ながら、私もそんな機会に巡り合い新分野へ転身した一人でもあった。

* Ezawa, Hiroshi
(公益財団法人) 神奈川科学技術アカデミー
川崎市高津区坂戸 3-2-1 KSP 内 (〒213-0012)